

警察常任委員会管内調査（阪神地域）報告書

平成 26 年 1 月 21~22 日

兵庫県議会議員 中田英一

| 行程   | 場所            | 内容                     |
|------|---------------|------------------------|
| 21 日 | 葺合警察署         | 署状概況等の説明（生田署・水上警察署合同）  |
|      | 東灘警察署         | 署状概況等の説明（灘署・芦屋署合同）     |
|      | 警察学校（芦屋市朝日ヶ丘） | 現場視察                   |
|      | 尼崎東警察署建設予定地   | 現場視察                   |
| 22 日 | 伊丹警察署         | 署状概況等の説明（川西署・尼崎東署合同）   |
|      | 尼崎南警察署        | 署状概況等の説明（甲子園署・尼崎北署合同）  |
|      | 警察航空隊（伊丹空港内）  | 現場視察                   |
|      | 清和台自治会（川西市）   | 県民との意見交換（防犯活動の取組みについて） |
|      | 宝塚警察署         | 署状概況等の説明（西宮署合同）        |

・葺合署



県下で最も古い建物で昭和 42 年築。木枠の受付が当時の面影を残している。

外見からは堅牢な印象を受けるが耐震診断は行っていないとのこと。まずは早急に診断を行い、耐震化・建替えの優先順位を決めるべき。同敷地内にある独身寮も同様に古く耐震診断を受けていないが入居率は 90%を超えている。

独身寮・待機宿舎に関しては、耐震化および建替え（築年数との関係から）が検討されるこの時期に、その必要性（民間アパートとの代替性）を厳しく検討しなければならない。

**水上警察**：6 隻の船舶を有し海上捜査（神戸港）も行うが、管轄は神戸空港やポートアイランドなどの陸上も含む。管内人口は 15000 人弱と小規模ながら、唯一の女性署長が指揮を執られている。女性幹部職の増加に向けた起点として活躍していただきたい。

## ・東灘署

灘署管内にある鶴甲待機宿舎（昭和 45 年：入居 5 戸／40 戸）の廃止が予定されている。待機宿舎とは緊急時などに即座に対応できるよう署の近隣に居住するための宿舎だが、都会では民間住宅も多く、県が所有・整備する必要性が低い。特に鶴甲は署からも距離があるため入居希望も少なかったことが予想される。

独身寮：入居率は軒並み 90%超と人気があるが、老朽化・耐震補強未整備、さらには同じ敷地内の警察署が手狭になっていること等を踏まえると、独身寮の廃止+警察署の（拡張）建替え+待機職員（署の近隣に居住する者）に手当てを出すという方法も検討すべき

## 芦屋署

県警で進める「子どもを守る 110 番の家」（子どもが通学路などで助けを求める目印として設置するもの）に、独自で親しみやすいキャラクターをコラボレーションさせている。

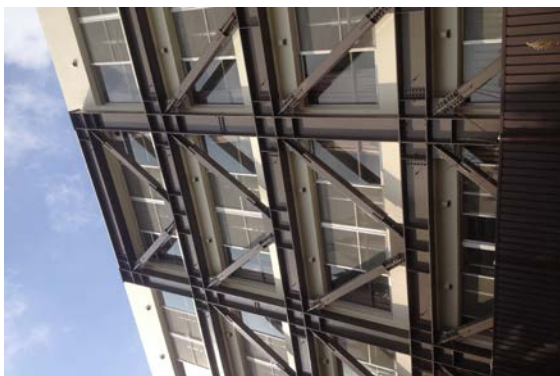
「ウルトラマンも守ってくれるこども 110 番の家」としてウルトラマンパネルを掲示。子どもが覚えやすくいざというときに役立つのでは。子どもの目線に立った工夫。

## ・警察学校

警察官試験に合格した後に訓練を受ける初任科と初任補習科、一般職員向けのコースがある。全寮制で、短期（大卒者）15 ヶ月・長期（高卒者ほか）21 ヶ月・一般職員は 4 週間の課程。給与も支払われるが、実務訓練など緊張感と責任感を与えられ、平均 18,5%程度の離職率（退校者）が出ている。

体感治安（実際の犯罪発生件数ではなく一般市民が体感する治安（感覚的なもの））が悪化しているといわれている中で、警察には質も量も求められており、警察官増強のため単に退校者を減らせばいいというものでもない。有望な人材を見つけ、育てることに注力して頂きたい。

警察の教育機関としては他に幹部候補を養成するための「管区警察学校」および「警察大学校」がある。



耐震補強は完了



栄養バランスの取れた昼食（蛋白質が少ない？）



さすまたを使い犯人を取押える訓練風景

交通違反取締りの機械訓練（警官いっぱい）風景

・ 尼崎東警察署建設予定地



現在の JR 尼崎駅南側から北側に移転予定。

しかし、予算上の制約として小野署建設工事が終わった後でないといけないという。

現在は電気店のフロアを借りて運営しており、毎月の賃料（200 万円程度）を考慮すれば、既に取得しているこの土地に早く建設する方が合理的と思える。

また、面積の狭い尼崎市には警察署統合（現在は北・東・南署＋分署 1 体制）の議論がある。北と南の 2 署体制に集約し効率的な署運営を目指してはどうか。尼崎市の特徴（抱える問題）

として街頭犯罪が多発していることが挙げられるが、この抑止・検挙にあたっては警官を一人でも・1時間でも多く署外に出すべきではないか。

そのためには、署の内勤人員や事務処理の重複を省くこと（統合）が有効だと思う。

#### **\*尼崎市ではひったくりが多発（県全体の3割が市内で発生）**

ただし、各署の取組み等によって（地域住民・団体の協力運動を得て）微減傾向にある。ひったくりの増加で警戒しなければならないのが、犯行に使用するオートバイク盗がセットで多発すること。ナンバーなどから足がつくことを恐れ犯人は盗難バイクを使用することが多いためである。

また、ひったくり犯には未成年が多いが、再犯率が高く、およそ5割程度とのこと。成人した後も再犯する者が多い。

一般市民への呼びかけに比べ、逮捕者への再犯防止策（教育）はターゲットが絞られる分行いやすく、再犯率の低下を進めなければならない。

#### **・伊丹署**

川西署では、高齢者徘徊対策を大阪府警と連携（＝情報の共有化）により効果を挙げているとのこと。ドラマ等ではなわばり争いをしているように描かれがちな警察だがこんな連携が生まれている。今後高齢化が進み同じような問題が増加する地域（全国的に同様と思われるが）において参考になる取組みだと思う。

#### **・警察航空隊**

伊丹空港敷地の隅に存在する。2台のヘリコプターを所有し、空からのパトロール／犯人追尾や捜索・救出を行う。警察を支える“空からの目”として大きな役割を担っていることを実感した。

ヘリに搭乗させていただいたが、飛行機からみる景色と違い（高度が低い／上空数百メートル）車や人がはっきりと目視でき、また小回りが利くので逃走車両はほぼ逃れられない。また、山岳遭難などでも地面から捜索するのに比べ何倍もの視野が人命救助に有効。その他にも、空からの目は火災現場での情報提供など地上との連携で大きな役割を担っている。

ただし、機体（メーカー）によって整備士・操縦士の資格・訓練が異なるため、機体の買い替えや災害時など広域連携を行う際に訓練のし直しや相互にヘリの操縦ができないなどの問題がある。（採用）規格・機体の統一を進めなければならない。



整備中のヘリ（フェニックス／大型 15 人乗）



搭乗させて頂いたヘリ（ひよどり／小型 8 人乗）



#### ・清和台自治会（川西市）

街頭防犯カメラの設置を積極的に進められている防犯先進自治会として視察させて頂いた。

カメラ設置の財源として主となっているのは資源ごみ回収の収益とのこと。

資源ゴミ回収はあまり収益が上がらず、市からの補助金収入がメインになりがちとの印象を持っていたため驚いた。

掘り下げてうかがうと、三田市の事業者と契約を結び月 4 回の戸別回収で年間 200 万円（2PTA に配分した残り）の収益が入るといふ。事業者の戸別収集だから役員の労力も省略でき、高齢化・担い手不足が高まる地域自治会に適している。

カメラの設置場所＝ニュータウンを縦断する主要県道、周回道路、およびそこに通じる入り口。外部からの犯罪者の侵入を防ぐという意図に沿って設置されている。

2 週間経過すると自動で上書きされる仕組みになっている。警察への情報提供は年間数件あり、主に外部犯罪者が外部に逃亡する経路にあたるということでの映像確認。

しかし、設置（およびその周知）により空き巣や車上荒らしなどの犯罪件数は減少傾向にある。

清和台自治会も高齢化・担い手不足およびつながりの希薄化が進行しているが、業者や最新

の機器などを利用して柔軟に対応している印象を受けた。どの自治会でもすぐに真似して取り入れることのできる事例だと思う。



集会所（自治会事務所）に取付けたカメラ



内部で記録している様子

以上